



藤原 晶 幸 議員
(明 和 会)

新たな農業・農村政策への対応は 総合的な産地力強化策を検討

【Q】 経営所得安定対策や水田フル活用と米政策の見直し、日本型直接支払制度や農地中間管理機構の創設など新たな農業・農村政策について、どのような対応を考えているか伺う。

【A】 新農政について、農協などの農業団体と連携し農業者に周知するとともに、しっかりと対応していきたい。近未来の農業像を描き総合的な産地力強化策を検討するため、農林部と商工観光部の統合をやめ、農林部を残して部の充実を図る。また、今後、日本型直接支払制度が機能するか検討しながら、必要に応じ国に対して要望していきたい。当面は、交付金減額による影響の緩和と、良食味で病害に強く倒伏に強い米づくりを進めるため、土壌改良資材の購入経費の3割を上限に助成するなどの支援をしていきたい。

少子化人口減少対策

【Q】 合併時からの人口動態と、平成25年度の人口減少への取り組みと人口減少の要因・解決策を伺う。

【A】 市長 平成18年度から24年度までの人口動態のうち、自然動態は出生者数合計が4998人、死

亡者数合計が8557人で3559人の自然減であり、社会動態は転入者数合計が1万7722人、転出者数合計が1万9188人で1466人の社会減となっている。

平成25年度は、乳幼児医療費助成事業の対象を未就学児から小学校6年生まで拡大するなど子育て家庭の経済的負担を軽減するための施策を充実し、学童クラブを新設するなどの子育て環境の整備にも努めてきた。また、人口減少や少子高齢化は国全体の課題だが、若い世代が家庭を持ち生活できるように雇用の場を確保するため、将来を見据えた工業団地拡張や企業誘致を進める。



国の新農政対応のため協議する農業者の皆さん



近村 晴 男 議員
(花巻クラブ)

「うすゆきそうサミット」開催は ウスユキソウ保護の先進地検討

【Q】 1935年(昭和10年)にハヤチネウスユキソウが独立種として発表されてから来年で80年を迎えるが、本市のシンボル花でもあり、薫り高い文化の発信の観点から「うすゆきそうサミット」の開催を検討してはどうか伺う。

【A】 市長 ウスユキソウは北海道から九州まで広く分布しているとはいえ、早池峰山と同様に生息地が限定され、絶滅危惧種に指定されている地域や自然保護のシンボルとして大切にしている自治体もある。今後、これら事例を研究しながら、地域住民の意見をお聞きし「うすゆきそうサミット」の開催も含め、文化の発信と自然保護のあり方について検討していく。

展示館の整備方針は

【Q】 故坂倉登喜子さんから預かっているエーデルワイスコレクションを活用する展示館について、新市建設計画、前花巻市総合計画に盛り込まれているが、今後の整備方針について伺う。

【A】 市長 「エーデルワイスコレクション」の活用方法や展示施設



花巻市の花である「ハヤチネウスユキソウ」

市政「ここが聞きたい」
いっぱん質問



若柳 良 明 議員
(平和環境社民クラブ)

職員の能力を生かす人事異動を 業務の専門性と職務の資質向上

【Q】 1、2年での異動発令や課長と課長補佐を同時に異動させる例が多く見られるが、職員の能力を最大限に生かすため、これを改めるべきと考えるが所見を伺う。

【A】 市長 市職員の異動については、基本的に同一業務を複数年(3、4年)担当し、当該業務の専門性を高める必要があると考えており、職員の資質向上を図る観点からも、できるだけ短年での異動は避けるよう改めていく。また、課長、課長補佐を同時に異動させることについても、円滑な業務引き継ぎの観点から、できるだけ配慮した人事異動に努めていく。

市職員の給料実態は

【Q】 県内の市町村と比較して本市職員給料が低いのは、どのような理由と分析しているか。また、県内他市と均衡を図るべきと考えが所見を伺う。

【A】 市長 給料月額水準を比較する一般的な指標として、国の水準を100とするラスパイレズ指数があるが、平成24年4月現在で本市は99.1であり、県内33市町村中29番目と



職員の資質向上のため行われる研修会

下位の水準に位置している。また、職員給与水準については、それぞれの自治体が、それぞれの事情を踏まえて制度を定めるとともに、職員組合との協議を踏まえながら、それぞれの運用を積み重ねてきた結果であると認識している。しかし一方で、国の水準や県内他市町村の水準との均衡も無視できないと考えており、今後、国の状況や県内他市の状況も精査しながら、均衡に配慮した運用に努力していきたいと考えている。



照井 雄 一 議員
(明 和 会)

市長の基本的な政治姿勢は 市民のためになるものは進める

【Q】 市民の関心事は端的に言っても、市長が代わることで、まちの何が変わるのかということである。しかし、まちづくりは「過性のものではなく、継続性が大切である」とは言うまでもない。そこで、今後の市政運営に当たって、何を継続し、何を取り除き、新たに何を取り入れるのかという基本姿勢について市長の考えを伺う。

【A】 市長 長期ビジョンに定める目指す姿に向かい、市民のためになるこれまでの政策・施策は今ままでおり進めていく。特に、交流人口の拡大は重要な課題であるため、近隣自治体とも連携した広域的な観光の推進やスポーツツーリズムについては、本市の強みである高速交通網の利便性等を生かして取り組んでいく。

そのうえで、農業を基幹産業として支援するため農業担当部署を維持し、しっかりとした農業政策を持ち、近隣市町と協力して国・県に働きかけるなど本市の農業を守っていく。さらに、待機児童解消や医療費負担のさらなる軽減を検討し子育て環境の充実に努め、企業誘致を積極的に進めるなど、定住人口減少問題に取り組む。そして、市の両輪である市議会、市民や市職員の意



新年度さらなる飛躍が期待される花巻市

中期プランのあり方

【Q】 まちづくり総合計画長期ビジョンで本市の目指すべき姿が示されたが、それらを具現化する中期プラン策定の考え方と時期を伺う。

【A】 市長 中期プランは本市の目指すべき姿を実現するための施策の基本的な方向性や成果指標を示すもので、市政運営を行ううえで重要な計画であり、拙速な策定は望ましくないと考えている。